吉島福祉だより

発　　行　吉島学区社会福祉協議会
発行責任者　会長　平本祐二
発行年月日　令和３年（2021年）11月吉日

被爆76年…広島の心を受け継ぎ世界に広げよう

76回目を迎えた平和祈念式典は、コロナ禍の中、昨年に引き続き規模を縮小して行われた。どんな状況であれ広島に住んでいる私たちは、平和の尊さや大切さを世界に伝えていかなければならない。ここでは、学区にお住まいの数人の方に原爆について聞いてみた。

「献花」

私は８月６日に行われた平和祈念式典に献花をするため、参加しました。

最初私が献花をすると決まった時は、ただお花をお供えすると思っていました。でも、献花をやってみて献花は原爆でなくなられた方々に「やすらかにおねむりください」などと伝えるために、お花をお供えするということが分かりました。献花はめったに出来ない事なので出来て良かったです。その日は、とても良い経験になったと思います。

吉島小６年　**小川柚咲**（ゆずは）

「広島から吉田まで歩く」

私は当時15才学徒動員で、倉敷航空機（飛行機の部品を作る工場）で働いていた。場所は今の広島南特別支援学校あたりだったと思う。

８月６日は良い天気。日本の形勢は悪くなっていて、仕事がないので工場の中で座って本を読んでいた。いきなり、窓から燃える火が見えた。後ろを振り返っても燃える火。爆音とともに屋根が落ちてきたのでとっさに機械の下にもぐりこんだ。外に出てみると建物は壊れていた。

自宅は、南大橋と明治橋の間にあり、船をつないでいた。明治橋の北の方から徐々に南の方へ火の手が回ってきた。何かあったら吉島の飛行場に集まろうと家族で決めていた。ひと晩飛行場で過ごす。幸い大きなけがややけどもなかったので、田舎へ帰ろうということになった。

吉島→南大橋→鷹野橋→市役所の前にはテントが張られていて被災証明をもらう。あちこちで煙はくすぶり、道の端には黒く腫れあがった顔の人、すでに亡くなっている人がたくさんいた。

紙屋町→左官町→十日市を歩く。脱線した電車の中や、高熱でカラカラに乾いた防火用水の中、相生橋の下には折り重なるように人が死んでいる。恐ろしいことだが死人に慣れてしまっていた。

横川→54号線→可部へ。亀山発電所に親戚がいたのでそこで１泊する。

歩き続けてようやく吉田に到着した。

その後、私だけ吉島に戻る。８月15日玉音放送を聞く。社宅近くの広場では、木切れや材木と一緒に死んだ人を焼いていた。「人生で一番つらかったことは、原爆に遭ったこと」終戦から４～５年食べるものはなかった。近所の人にも嫌われ、いじめにもあった。

「ああいうもの（原爆）は、作っちゃあいけん。人類は滅亡する。」

吉島西三丁目　**佐伯　博**

「平和について考える」

８月６日（金）は、いつもより早い登校後、各教室で平和記念式典のＴＶ視聴を行いました。８時15分からは原爆で犠牲になられた方々のご冥福を祈り、黙とうを行い、広島市の児童代表による「平和の誓い」を聞きました。校長先生からは、平和についてのお話を聞き、絵本を紹介してもらいました。そして平和教材アニメ「つるにのって」を視聴しました。全校児童で平和について考える一日となりました。子どもたちは、平和の大切さを知り、改めて平和や反核への思いを深める一日となりました。

ー吉島小学校・学校だより９月号よりー

「被爆地広島に住んで」

広島に原爆が投下されて今年で76年。今年も８月６日に原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式典が開催され式典の生中継は全国ではＮＨＫのみ、聞くところによると他の放送局は普段通りの放送、広島市は全ての放送局において中継が行われた。なぜ全国の放送局で祈念式典を放送しないのか？原子爆弾についての意識が薄くなっている原因の一つにテレビなどのメディアで取り扱う機会が少ないことが考えられると思う。又我々が学生時代には経験したことのない被爆の実相や核兵器廃絶への取り組みを理解すための平和学習講座を大いに活用し広島市民として原爆の記憶を風化させないように被爆体験の継承に取り組んでいければと思う。

吉島学区社会福祉協議会 会長　**平本祐二**

「幸せな生活」

私が３才の時、父親は被爆している。当時呉に住んでいた。

呉工廠にいた父は、たまたま８月６日は広島市の白島にいた。爆風とともに屋根が落ちてきて窓ガラスが粉々になって飛び散った。自分が逃げるので精一杯だった。やがて島根に戻ることになったが、村人全員の許しがなければ帰れない。地主であったが、土地は取られ（農地改革）微妙な立場に置かれていた。しかし、父は百姓をして米を作った。汗にまみれ額を拭くと、チカーっとガラスに触れる。あの時、体中に浴びたガラスが残っていた。その後、母の病気を治すため広島に出てきたが私が小学５年の夏休みに母は亡くなった。

「原爆によって幸せな生活が一変した」と思っている。戦争がなければ、原爆投下もなく幸せな生活が続いていたに違いない。

この地球から戦争をなくさなければならないと思う。

光南二丁目　**向田一馬**

「原爆の記憶はない」

1945年８月６日、爆心地から１キロほどの中区富士見町で被爆した。私は２才６ヶ月だった。体験を話そうにも全く覚えていない。

妹の富美子は、翌年生まれている。胎内被爆である。その妹は、沖縄の被爆者団体に所属し活動している。2017年ピースボードの世界一周クルーズ中に船内での被爆者はおられませんか？の呼びかけに、自ら申し出てインタビューに答えている。被爆体験を話すことができないが、父親の原爆の状況や被害などを証言した。そしてアイキャンはその年の12月ノーベル平和賞を受賞している。妹は原爆や戦争の傷痕が残る自分自身と今も向き合っている。

私は、これ以上核開発を進めてはならないと思う。使い方を一歩でも間違えれば、狭い日本どころか、地球が滅びることになる。

光南二丁目　**中原泰司**

「世界平和を願う」

1945年８月に広島、長崎に人類史上初めて原子爆弾が投下され、一瞬にして焦土化し多くの市民が犠牲となり終戦を迎えました。

このような悲惨な体験は二度と繰り返してはなりません。

現在も核兵器の開発や実験も止む事もなく行われていますが、争うことによって大切な命だけでなく多くのものが失われる事を先の戦争で経験したはずです。核を保有するのが戦争への抑止力と考えず国際社会全体が恒久的な世界平和を願わなければなりません。今あるこの国の平和と繁栄は、先の戦争で犠牲になられた多くの人々の礎によってもたらされたものです。その事を忘れないよう語り継ぎながら、日々感謝して謙虚に生きて参りたいものです。

光南三・六丁目 町内会長　**富田　守**

「原爆被爆者二世健康診断」

両親ともに東区尾長にて被爆している。

私は2010年から、４年に１度放射線影響研究所が行っている原爆被爆者二世健康診断を受けている。自分自身の健康のバロメーターとして毎回診断を受けている。

採取された血液は永久保存されるそうである。

今も世界中で戦争が起こっていてたくさんの犠牲者が出ている。広島、長崎の原爆を教訓として世界から「戦争」がなくなればいいと思っている。

光南二丁目　**向田恭子**（ともこ）

おじゃします #7

今回は、三味線演奏で、ボランティア活動をされている**高橋康代さん**をお訪ねしました。

お稽古に励む高橋さん

三味線の演奏を始めたのは、十数年前のこと。お母様の介護に明け暮れていた頃、友人のひとりに「何か趣味を持って気分転換をした方がいいよ。」とアドバイスを受けたことがきっかけでした。勧められるままに安来節保存会に入り、三味線、唄、鼓を勉強されたそうです。そのお陰で生活にメリハリができたことは言うまでもありません。

介護が終わっても、三味線は続けていて、今は後輩の指導をしながら、ボランティア活動に力を入れておられます。いろいろなところに出向いて、安来節や童謡唱歌など三味線の伴奏で、皆さんと一緒に歌って楽しんでおられるそうです。

ただ、今はコロナ禍の中で思うような活動もできずお稽古をするだけの日々。コロナ終息の折にはお声かけくだされば どこにでも参上しますと、笑顔で応えてくださいました。

老人クラブ グランドゴルフ

8月25日（水）南道路高架下にて、コロナ対策をとりながら学区老連グランドゴルフ大会が行われた。約40名の参加があり、暑い中熱戦が繰り広げられた。優勝を果たした松田好枝さん（光南三丁目）をはじめ12名が、10月14日に行われた中区大会に出場。さらに激戦を勝ち抜いた、下崎義幸さん（南吉島）篠原紀喜さん（吉島西三丁目）が市大会へのキップを手にした。

尚、ペタンク大会の中区大会は中止となっている。

優勝 子ども会中区夏季球技大会

夏季球技大会

8月7日・8日に吉島東小学校で夏季球技大会がありました。

私は絶対優勝する気持ちで挑みました。

試合では大きな声を出して今まで練習したこと全て出しきり、のどがかれるまで出し、足が動かなくなるまでがんばりました。

途中、失敗することもあったけどチームのみんなや監督・コーチ、保護者の方々がはげましてくれました。

今回優勝することができたのは、できることをすべて出しきり応援してくれた方そして今まで教えてくれた監督・コーチのおかげです。

次は市の大会市子連があります。

市子連でも優勝できるようにがんばります。

吉島学区子ども会フットベースボールクラブ　**加藤音愛**（おとあ）

この度、吉島学区子ども会フットベースボールクラブは中区夏季球技大会で優勝する事が出来ました。

コロナ禍の中で思ったように練習も出来ない状況が続き、大会当日は暑さも厳しく子ども達の体力と集中力が持つか心配でした。

準決勝では１点差の緊迫した試合展開で、一瞬たりとも気を抜けない状況の中、今までの厳しい練習に耐えた忍耐力と勝ちたいという強い気持ちで乗り切り、勝利を掴む事が出来ました。優勝した瞬間、子ども達の笑顔を見ると一緒に戦う事が出来て本当によかったなと思います。

今回の優勝で子ども達は達成感と、目標に向けて頑張る事の大切さを実感してくれたと思います。この経験がこれからの生活に生かされると信じております。

地域の皆様には引き続き御支援賜ります様、宜しくお願い申し上げます。

監督　**沖元広和**

～＊～ 新任のごあいさつ ～＊～

「もっと楽しく」

この度、前代表の尾上さんから交代し、弱輩者の松下瑞穂が「吉島ひまわり会」の代表をさせて頂くことになりました。これまで１年余りは、会のお手伝いをしていましたが、まだまだ分からないことばかりです。諸先輩方に助けてもらいながら、皆さんと一緒に楽しく活動できるように頑張っていきたいと思います。

しかしながら、昨年から続くコロナ禍の中では、月に１度の活動自体が中止、感染予防の対策を取りながらの状態では、思うような活動ができていないのが現状です。

私はすでに母を亡くしています。母と同年代の皆さんとご一緒させて頂いていると、母の姿を思い重ねることができるのでとても嬉しく思っています。

これからも元気に参加してもらえるように活動内容を楽しいものにしていこうと思います。どうぞよろしくお願い致します。

吉島ひまわり会 会長　松下瑞穂

「地域で支える子ども会」

令和３年度吉島学区子ども会育成協議会会長を務めさせていただきます小川太一と申します。よろしくお願いいたします。

子ども会活動は、緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置が出される期間も多くあり、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため行事の縮小や中止を余儀なくされ、今までどおり活動することは難しい状況になっております。

子どもたちはもちろん親も含めて自粛疲れでストレスも溜まっていることだと思います。

活動が再開出来るようになったときには、ストレスを発散するためにも、子ども会行事を通して、人と人との繋がりを作り一緒に楽しく地域を盛り上げていきましょう。

子ども会育成協議会 会長　小川太一

よしじま認知症カフェ

いちじくの会

10月は講師 米澤満智子様をお迎えし、介護体験談「笑顔で会える」を開催しました。米澤様のお母様は脳梗塞から認知症を発症、自宅で介護している時は戸惑うことが多かったが、そんな時は一息ついて心に余裕を持たせ「～しましょうか？」と母親に敬意をもって会話をするよう心掛けたそうです。現在は施設に入所されましたが、お互い「笑顔」で面会されているそうです。

参加者は、地域住民・認知症のご家族を介護している方・介護サービス事業所職員・中島地区認知症カフェ「よっといで」のスタッフの方々等多数参加していただきました。今後の予定はチラシをご参照ください。

広島市吉島地域包括支援センター　富岡　佐千江

編集後記

新型コロナウイルスの感染者数は減少傾向にあります。しかしまだまだ油断せず感染予防を徹底していきましょう。引き続き、多くの情報をお待ちしております。

学区代表推進委員　能登谷　秀一